

補習教育の必要論

時勢は益々その振興を必要とする

田澤義鋪

補習教育とは何ぞ

近世教育に關する問題は、世上議論せらるること甚だ多きは、一國文化の進歩に於て著すべき現象なること勿論なるも、其の多くは專門教育の進歩の問題である。人は義務教育の進歩の問題として之を論じ、固より教育問題として重大なる意義をもつものなるも、此兩者の間に以てても、固より何れも其の出来ぬ重大なる問題が存在する。即ち人は小學校を卒業しても、家庭の事情等によりて、中等程度の學校に進むことのできない多數の國民があることを忘れてはならない。或る小學校を卒業する者の中で、中等程度の學校に進み得る物は僅かに三割を出でない。實に中等級の多數は、直に家庭の人となるが、若しくは

補習教育の必要

此の時勢を、國民の天は危險な年輪を擲し、奮勵してゐることを一生を通じての義務とする。是を無教育の狀態に任せること云ふことは、其の人にとって此上もない不幸である。補習教育の必要を論じて補習教育を奨励せる際に、學校と家庭との間に教育的空氣を流しむる勿れの語を以て其の標語としてゐた。之等は實に味はうべき語であると思ふ。一家の不如意の爲に、小學校を後に職業に従事し、何等教育を受くるの施設なしとせば、之等の人は一生を社會の劣敗者として悲惨な運命に流かねばならぬ。勿論、補習教育の施設等によりて、之等の人も相當の程度に向上するを得るであらうが、斯の如きは總ての人に望まれないのみならず、偏した教育で、眞實な自己を、若少年に取つて、決して健全な人格を形成し、優秀なる技術を得得るを得ない。又之を小學校との關係より論ずるも、補習教育を待つて始めて小學校が出来る。小學校後向き教育を受ける機会を有せないと云ふことは出来ぬ。補習教育は如何に低下するかは、徴兵検査の際に行せらるる、實力検査に於て明瞭に看取するを得る。補習教育振興に對して教育費の多額なるに對し、補習教育の自己負担も亦あるが、之等は思はざるの難い。たしきの云はねはならぬ。余せるもの今日も教育費が地方自治體の經費の五割を占めて居るものではない。併し之れは多額の經費を支出して行つた小學校の卒業生の七八割は云ふ多數者が對しては、其の効果が甚だしく減少すると思へば、更に幾分の増大を認んで、補習教育を施し、以て小學校の効果を確保するの賢明なる方策たるを拒むを得ないであらう。

然すれば、補習教育の必要を痛切に感ぜざるを得ない。近代國家は其の國民の適應力を増進することに、何れも異常の努力が拂ひつゝある。而して健康の問題は各國民の組織と保健衛生の間に關係する。勿論なるも、其の根柢は之を教育に求むるの外はない。國民の教育を備へない小學校の六年を以て計んずるが如きは、到底文化國家の職責を果すべからぬ。況んや、近來社會の狀況に鑑み、民衆の向背が國家の運命、社會の安全に關すること極大なる時に於ては、深く此の點に留意せなければならぬ。之を政治に就て見ても、普通選挙は遠からず將來に於て必ず實施さるべき前途を有する思想は、之が準備されても、多數國民教育に向つて全力を盡さなければならぬ。而して公費を以て其の生活を支拂つて、中等教育を施すこと、至し當り不可能すれば、補習教育を求むるより更に方法はないのである。之を社會問題の急務と云はざるを得ない。未だ

(甲)